

在宅復帰・在宅生活継続のためのリハビリ合宿

～リハビリ合宿対象者の基準について～



pixta.jp - 13605862

介護老人保健施設サルビア
通所リハビリ室室長
理学療法士 並木 貴之



リハビリテーション合宿とは

短期集中リハビリテーション+α

退院後そのまま在宅での生活に不安のある方
最近急激に介助量が増えてきた方
そのような方に対して集中的にリハビリテーションを
実施することで在宅生活を継続していただくものです。
今まであった短期集中リハビリテーションの考えをよ
り広げたものになります。

短期集中リハビリテーションとリハビリテーション合宿の違い

通常のリハビリテーション

入所日から退所日まで

1回20分のリハビリを3回/週
但し、直接介入以外も含まれる。

入所中の方全員。

短期集中リハビリテーション

入所日から3ヶ月間

1回20分のリハビリを3~6回/週

条件にあった方全員が受けることができる。

リハビリテーション合宿

入所から2週間~3ヶ月間

その方に必要なリハビリの時間（60分以内）を6回/週

短期集中リハビリ外の方も対象。

施設側で判定させていただきます。



リハビリ合宿対象者

以下の条件で判定させていただきます。

- ・ 在宅復帰を希望している方（本人・家族）
- ・ 本人が積極的にリハビリに参加できる方
- ・ **ある程度効果が見込める方**  **予後予測が必要**
- ・ 要支援から要介護 3 程度の方
- ・ 何かをきっかけで急に A D L が低下し始めている、あるいは低下した方。

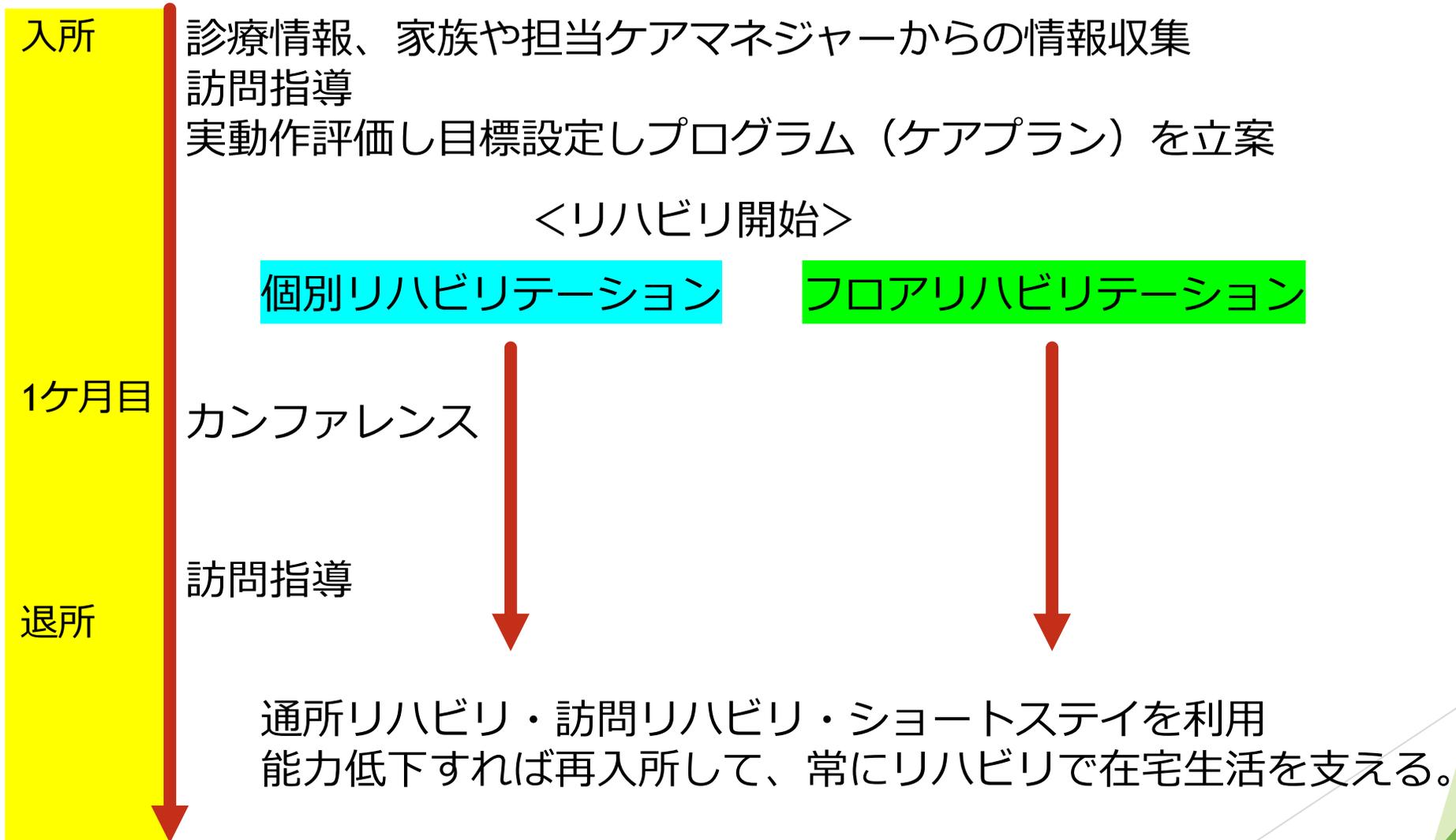


リハビリ合宿の対象にならない方でも短期集中リハビリは実施いたしますので安心してください。

期待できる効果

- ▶ 評価→予後予測（問題点を明確化している）
- ▶ 短期では期限内の在宅復帰がグレー、合宿により可能性アップ
- ▶ 経験のある複数のセラピストが関わる事で、治療効果が期待できる
- ▶ 時間・頻度が増加する事で、効果がキャリーオーバーされ易い。

リハビリテーションの流れ



チームでの関り



- ①医師 : 医学的管理 病気についての相談
- ②看・介護スタッフ : 生活リハビリテーション、服薬指導、介護指導等
- ③栄養士 : 嚥下食 栄養指導
- ④療法士 : 個別リハビリテーション 家屋評価 福祉用具の選定 自主トレ指導
介助指導 (家族、ヘルパーなど)

<実績>

ケース 1

対象者：サルビア通所リハビリ利用の片麻痺80歳代女性。HDS-R：21点

課題：原因不明で自立していたトイレ動作が急にできなくなった。

個別リハビリ：1日40分から60分の個別リハビリを週6回実施し。

連携：能力アップに伴いフロアADL場面でも介助量を減らしていく。

結果：1ヶ月後にトイレ動作自立再獲得在宅復帰。通所リハビリ再利用。



<実績>

ケース 2

対象者：サルビア通所リハビリ利用の94歳女性。HDS-R：21点

課題：転倒による、活動量低下に伴い体力、筋力のが低下し歩行困難となる。

個別リハビリ：1日40分 週6回個別リハビリ実施。
歩行器、杖歩行、独歩と徐々に歩行のレベルが向上。

連携：ご家族へリハビリの進捗状況と、実際の動画を確認していただき
在宅復帰の認識を共有する。

結果：約2ヶ月後に杖歩行能力を再獲得し在宅復帰。通所リハビリ再利用。



次のステップ

▶ サルビア通所リハビリから合宿

▶ サルビア訪問リハビリから合宿



- ▶ 担当リハビリスタッフがリハビリ合宿担当スタッフに相談
- ▶ 『在宅生活の継続』や『在宅でのADLの向上』に効果があると判断
- ▶ ご家族や担当ケアマネへ提案
- ▶ 入所担当相談員へ連絡

最終的には...

- ▶ サルビアを利用していない方をリハビリ合宿へ繋げていきたい
- ▶ ショートステイや1-3カ月の限定入所（ミドルステイ）等
- ▶ その為には、事前に訪問しての評価が必要。
- ▶ 対象者の把握は、居宅ケアマネの方々のご協力が必要。
* 先ずはご相談下さい。

- ▶ 在宅復帰後のフォローアップも可能
- ▶ 通所リハ・訪問リハ・短期入所等